

第 16 回選定委員会議事概要

(第 27 回物質・生命科学実験施設利用委員会との合同開催)

- 1 日 時： 平成 29 年 9 月 6 日 (水) 15:00 ~ 17:00
- 2 場 所： AP 東京八重洲通り 7 階 P+Q 会議室
- 3 出席者：[委 員] 家泰弘 (委員長)、秋光純、杉山正明、鬼柳善明、柴山充弘、杉山純、高原淳、有馬孝尚、古坂道弘、高田昌樹、山口敏男、岸本直樹、岸本浩通、常行真司

(出席者 14 名 (定足数 7 名) のため委員会は成立。)

[一般財団法人総合科学研究機構 (以下、CROSS と略称)] 横溝英明、佐藤淳一

[オブザーバー：文部科学省] 西山崇志、大榎直樹、鬼柳亮嗣

[オブザーバー：物質・生命科学実験施設利用委員会] 金谷利治、瀬戸秀紀

[オブザーバー：CROSS] 村澤通彦、舟越賢一、宮崎司

[事務局] 太田淳子、浅井利紀

(以上、敬称略)

4 議事次第：

1. 開 会

- (1) 開会の挨拶 J-PARC センター センター長 齊藤 直人 (J&C)
文部科学省量子研究推進室 室長 西山 崇志 氏 (J&C)
- (2) 委員紹介及び委員長 (J, C)、副委員長 (J) の選考、委員長代理 (C) の指名
- (3) 合同委員会についての説明 (J&C)
- (4) 前回議事録の確認 (J, C)

2. 審議事項 (J&C)

- (1) 2017B 期課題審査について (J&C)
- (2) 2018A 期以降の中性子一般課題の審査体制について (J&C)
 - i) 分科会構成の変更について
 - ii) 中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会と分科会の運営方法の変更について
 - iii) 中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会及び分科会委員の選考について
- (3) 2018A 期以降の募集課題について (J&C)
 - i) 2018A 期一般課題 (短期) 公募、審査について
 - ii) 2018B 期一般課題 (長期) 公募、審査について
- (4) MLF メールインサービス (仮称) の試験導入について (J&C)
- (5) 専用施設審査委員会における茨城県専用ビームラインの評価と中性子実験装置部会における中性子ビームラインの中間評価について (J&C)

3. 報告事項 16:25-16:55 (30 分)

- (1) 施設利用・共同利用に関する報告 (J&C)
- (2) ミュオン実験装置部会報告 (J)
- (3) MLF 報告 (J&C)

4. その他・事務連絡・閉会 16:55-17:00 (5 分) (J&C)

- (1) 意見交換
- (2) 次回の開催について

(3) 閉会の挨拶 CROSS 中性子科学センター長 横溝 英明

但し、選定委員会の議事は C、物質・生命科学実験施設利用委員会（以下、MLF 施設利用委員会という。）の議事は J と記載した。

この議事録は上記議事次第に (C) 及び (J, C ; 同一議事題名だが分けて審議) (J&C ; 同一議事題名で合同での説明、意見交換) と記載した議事のみを対象としている。

5 配布資料リスト

- 資料 1-1 MLF 施設利用委員会/選定委員会名簿
- 資料 1-2-1 審査体系図（一般課題・装置提案）
- 資料 1-2-2 MLF 体制図
- 資料 1-2-3 物質生命科学実験施設利用委員会規則
- 資料 1-2-4 選定委員会運営規程
- 資料 1-3-1 第 26 回物質・生命科学実験施設利用委員会議事録（案）
- 資料 1-3-2 第 15 回選定委員会議事概要（案）
- 資料 2-1 2017B 期課題審査まとめ
- 資料 2-2-1 2018A 期以降の中性子分科会構成
- 資料 2-2-2 中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会と分科会の運営方法の変更（案）
- 資料 2-2-3 次期中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会委員名簿（案）
- 資料 2-2-4 次期中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会分科会名簿（案）
- 資料 2-3-1 2018A 期一般課題公募・審査方針（案）
- 資料 2-3-2 2018B 期長期課題公募・審査方針（案）
- 資料 2-4 MLF メールインサービス（仮称）の試験導入について
- 資料 2-5 茨城県専用施設に関する審議結果と中性子装置中間評価について（案）
- 資料 3-1-1 JAEA 設置者 BL・共用 BL における施設利用
- 資料 3-1-2 中性子 PAC 報告
- 資料 3-1-3 ミュオン PAC 報告
- 資料 3-2 ミュオン実験装置部会報告
- 資料 3-3 MLF 報告
- 資料 4 意見交換資料
- 別冊資料 1 2017B 期課題審査詳細
- 別冊資料 2 中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会報告
- 別冊資料 3 ミュオン課題審査部会報告
- 回収資料 1 2017B 期一般課題（長期）審査結果一覧表
- 回収資料 2 2017B 期中性子一般課題（短期）審査結果一覧表
- 回収資料 3 2017B 期ミュオン一般課題（短期）審査結果一覧表
- 参考資料 1 2017B 期長期課題審査ガイドライン
- 参考資料 2 2017B 期長期課題分科会報告
- 参考資料 3 長期課題の課題選考の在り方について
- 参考資料 4 2017B 期中性子分科会 Minutes
- 参考資料 5 2017B 期ミュオン課題審査部会、分科会 Minutes
- 参考資料 6 2018A 期一般課題（短期）公募要領（案）
- 参考資料 7 海外中性子施設メールイン調査

参考資料 8 専用施設実績評価・次期計画評価報告

参考資料 9 専用施設審査委員会・中性子実験装置部会 議事録

6 議事概要

1. 開会

(1) 開会の挨拶

西山量研室長より、「J-PARC は 1 MW の定常運転が達成されれば次の段階に進むことになる。そのためには、経営基盤を強化し正の好循環を作っていくという取り組みも J-PARC の真正面の課題として捉えていく必要がある。施設利用委員会/選定委員会は質の高い研究課題を選定する重要な会議であると考えており、今後この会議で一緒に考えていきたい。」という挨拶があった。

次に齊藤 J-PARC センター長が「良いサイエンスが選ばれきちんと実行され次のステップにつながるという、良いサイクルを回すためご協力頂きたい。」と開会の挨拶をした。

(2) 委員紹介及び委員長の選出、委員長代理の指名

瀬戸 J-PARC MLF 副ディビジョン長が、資料 1-1 に基づき委員の紹介をした。次に委員の互選により家泰弘委員が委員長に選出され、さらに家委員長が岸本直樹委員を委員長代理に指名した。

(3) 合同委員会についての説明 (J&C)

金谷 J-PARC MLF ディビジョン長が、資料 1-2-1 から資料 1-2-4 に従って、この会議が J-PARC の物質・生命科学施設利用委員会と CROSS の選定委員会という独立な 2 つの委員会の会議であること、しかし共有すべき情報も多いことから、量研室の許可を頂き合同で開催するようになったことを説明した。

(4) 前回議事録の確認 (J, C)

家委員長より第 15 回選定委員会議事概要 (案) (資料 1-3-2) の確認の要請があった。

[結果]

第 15 回選定委員会議事概要 (案) は承認された。

2. 審議事項

(1) 2017B 期課題審査について

瀬戸 J-PARC MLF 副ディビジョン長が、資料 2-1、別冊資料 1 に従って 2017B 期課題審査の全体の概要を、古坂利用研究課題審査委員会委員長が、回収資料 1、別冊資料 2 に従って課題の審査結果と利用研究課題審査委員会において分科会から上がった意見や要望について説明した。

共用 BL の一般課題 (短期、長期) 及び新利用者支援課題は、全申請数 150 件に対して 82 件が採択 (採択率は 55%) された。(MLF 全体の一般課題 (短期、長期)、新利用者支援課題及びミュオン P 型課題は、全申請数 352 件に対して 202 件が採択 (採択率は 57%) された。)

[結果]

利用研究課題審査委員会審査結果は承認された。

さらに、分科会からの意見や要望について、以下の議論を行った。

[議論]

<長期課題の短期課題への自動的移行について>

- 長期課題が不採択となった場合に自動的に短期課題に回せるようにするという要望について、システムの可能なのか？
 - 課題申請、審査システムの作りこみによるので、可能かどうかをシステム担当者が検討している。可能であれば対応する。
- 長期課題と短期課題はもともと異なる課題であるので、長期課題を自動的に短期課題に回す措置を「どういう考え方で行うか」、「どうテクニカルに行うか」、という両面から検討して欲しい。

<海外ユーザーを増やすことについて>

- 海外の利用者を増やすべきとの意見について、施設はどう考えているか？
 - 施設としても国際化したいという意思がある。しかし公平性の問題から、特別に海外利用者枠を設けることは考えておらず、海外の利用者を勧誘することで進めている。
- 今後 J-PARC からのアウトプットが増えれば、海外ユーザーも増えると思う。

<装置担当者との事前相談の推進について>

- 申請者が申請前に装置担当者と相談することを推進することについて ISIS を見習ったらどうかという意見について、施設の考えは？
 - 施設としてもぜひ推奨したい。そのため、数年前から課題申請書に事前に相談した装置担当者を記載するようにした。
- 確かに課題申請書にその項目が追加されたが、実際に申請者がそれを読んでいるかどうかはわからない。一方 ISIS は課題申請システムで事前相談をしたかどうかをチェックするようになっていて、チェックをしないと先に進めない。また相談した場合はその担当者を選択するようになっている。システムを改修する必要があるが、見習うとよいのではないか。
 - 施設で検討して対応する。

<学生が課題代表者として申請することについて>

- SPring-8 では博士課程の学生が課題代表者としての申請を認めている。人材育成の観点から研究者としての自立のための訓練と考えていて、審査では特別扱いをしていない。
- 学生が申請者の場合に特に必要となるのは事故の場合の対策で、SPring-8 では保険に入るようにしている。
 - KEK の Photon Factory でも博士課程の学生が課題申請者となる制度がある。施設の戦略にも関わることなので、MLF でも検討し提案したい。
- J-PARC の制度等、事務的な問題はないか？
 - もしかか問題があったとしても、何とかして実現したい。

(2) 2018A 期以降の中性子一般課題の審査体制について

i) 分科会構成の変更について

瀬戸 J-PARC MLF 副ディビジョン長が、資料 2-2-1 に従って、P5 分科会の課題数が多くなっていることから、2018A 期以降の分科会構成では P5 分科会を 2 つの分科会に分けることについて説明した。

[結果]

分科会構成の変更案は承認された。

ii) 中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会（以下、NSPRC/PEC と言う。）と分科会の運営方法の変更について

瀬戸 J-PARC MLF 副ディビジョン長が、資料 2-2-2 に従って、分科会で全課題を審議するようにする、分科会と NSPRC/PEC の間に装置責任者によるビームタイムの調整の時間を設ける、NSPRC/PEC は各分科会からの委員を分科会長のみとして少人数の委員構成とすることを提案した。

この提案について以下の〔議論〕に示すような議論を行い、以下のような結論とした。

〔結論〕

審査体制の変更案は承認された。

〔議論〕

- NSPRC/PEC を分科会と連続ではなく別の日に開催するということか。
 - 委員の都合がつけば 3 日間連続でもよい。
- 分科会でじっくり議論をしたいという主旨はよくわかる。
- NSPRC/PEC に海外委員がいなくなることについて、今までビームタイム配分等について海外委員から広く海外施設の例を教えてもらったりしていたが、MLF の体制が確立してきたので、大丈夫かと思う。

iii) 中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会及び分科会委員の選考について

瀬戸 J-PARC MLF 副ディビジョン長が、資料 2-2-3、資料 2-2-4 により、前項 i)、ii)において承認された変更に沿った中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会及び分科会の委員案を提案した。

〔結果〕

委員案は承認された。

(3) 2018A 期以降の募集課題について

i) 2018A 期一般課題（短期）公募、審査について

瀬戸 J-PARC MLF 副ディビジョン長が、資料 2-3-1 に従って、2018A 期一般課題（短期）の公募、審査のスケジュール等について説明した。さらに、分科会やレフェリーからレフェリー審査の際に過去の課題審査の情報（スコア分布やボーダー等）をレフェリーに開示して欲しいとの要望が出ていることと、今後も行わない方針であることについて、説明した。

〔結果〕

2018A 期（短期）課題公募、審査方針案及び、過去の課題審査の情報をレフェリーに開示しないことが承認された。

ii) 2018B 期一般課題（長期）公募、審査について

川北 J-PARC 中性子利用セクションサブリーダーが、資料 2-3-2 に従って、長期課題の 2018B 期新規課題の公募及び審査と 2017B 期に採択した課題の中間評価の方針とスケジュールについて説明した。

〔結果〕

2018B 期一般課題（長期）公募、審査方針案は承認された。

(4) MLF メールインサービス（仮称）の試験導入について

神山 J-PARC 中性子利用セクション員が、資料 2-4 に従って、この利用形態を導入する背景やメリット、試験的導入の内容について説明した。

この提案について以下の〔議論〕に示すような議論を行い、以下のような結論とした。

〔結論〕

メールインサービス（仮称）の試験的導入は承認された。

〔議論〕

- 一般課題の Approved より優先度が低いとのことであったが、Reserved 課題との優先度の関係はどうか？
 - このサービスは一般課題調整枠で実施するので基本的には一般課題と実施枠は異なるが、ビームタイムが足りなくなり競合する場合は、一般課題の Approved 課題を優先するが、Reserved 課題は考慮しない。
- 多くの申請が来た場合実施する課題をどう選定するのか？
 - 基本的に先着順で、設けている利用制限に従って受け入れる。
- Reserved や Not Approved となった課題が申請されたらどうするのか。
 - Reserved や Not Approved となった課題もユーザーの可能性を広げるため受け入れる。
- なぜ無償とするのか？これだけサービスするのだから有償でもいいのではないか？
 - 既存の中性子の同様なサービスは無償で実施されている。施設の競争力に係るので、無償で実施することは極めて重要である。
- 実際には無償ではない。受け入れ側が実験に係る費用を払う。このようなやり方は一般的ではないので気を付けなければいけない。
- サービスは財務諸表を出せる形で実施しなければいけない。経営者である量研室の承認を得て、新制度として予算をもらって始めるべき。
 - まず試行してユーザーの動向を見て、本導入となれば予算獲得等について検討したい。
- すでに MLF で茨城県が実施している iMateria でのメールインサービスの実績は？
 - 年間申請件数は 3~4 件であった。なお、茨城県ではメールインサービスは基本的に成果非公開での利用としていて、利用料金を通常の成果非公開課題の 50%増としている。

(5) 専用施設審査委員会における茨城県専用ビームラインの評価について

鬼柳専用施設審査委員会委員長が、資料 2-5 に従って、茨城県専用施設（BL03、BL20）の実績評価と次期計画評価の審議結果を答申した。

〔結果〕

答申内容は承認された。

(6) その他の意見交換

その他、課題選定に関して以下の議論があった。

〔議論〕

<評価結果の申請者への開示について>

- 申請者に評価結果を返しているのか。特に不採択の申請者には今後のために返した方がいい。
- SPring-8 では返していない。点数の基準が難しいし大変デリケートなので、評価の開示は慎重にすべき。

- 科研費では申請時に結果の開示の希望を聞いて、希望者にのみに開示している。開示希望者はそう多くはない。開示は上位何%から何%という範囲を A, B, C で示している。しかし MLF の場合は装置とのマッチングといった問題もあり、必ずしも課題の優劣だけで決まるものではないので、開示するのは難しいと思う。
- 現在、レフェリーコメントは申請者に返している、これにはよくない理由も含めかなり重要なことが書いてある。また現状では 4 点以上の課題も採択されない場合もあり、このような高得点でも不採択となった課題に対しては「もっと良い課題があったため」と説明するしかない。そのためスコアを返すより、コメントの書き方を適切にするという対応の方がよいのではないか。
- これらの意見を踏まえ、ユーザーが納得できるような評価結果の返し方を考えて欲しい。
 - 施設で検討して提案する。

<課題申請書に関するユーザーへの対応について>

- 具体的な実験計画が書かれていないなど内容が貧弱な課題申請書が多すぎると感じている。このような課題の申請者にどうフィードバックを掛けるか、検討して欲しい。

<レフェリーの評価について>

- 内容がないレフェリーコメントが何件か見受けられる。このようなレフェリーのスコアは配点から外すべきとも思うので、その点も含め対応を検討して欲しい。
- 次期より新規に P4 分科会が創設されるが、同じ分野の P5 分科会との間にスコアの偏りが生じる恐れはないか。
 - 平均点の偏りがあった場合には平均点の低い方に加点する等の対応をする。今まで中性子では平均点がばらついたことはなかったが、ミュオンではそのようにして対応している。

3. 報告事項

(1) 施設利用・共同利用に関する報告

川北 J-PARC 中性子利用セクションサブリーダーが、資料 3-1-1 に従って、施設利用枠の利用状況及び過去のプロジェクト課題の成果、2018 年度に新たに立ち上げる JAEA プロジェクト課題の募集及び評価の予定について報告した。

(3) MLF 報告

金谷 MLF ディビジョン長が資料 3-3 に従って MLF の現状について報告した。

4. その他・事務連絡・閉会

(1) 次回の開催について

次回の開催は 1 月下旬から 2 月上旬ごろを予定している。

(3) 閉会の挨拶

横溝 CROSS 東海センター長が「経済基盤の強化や財務諸表について、今まで馴染みがなかったため、今後検討していきたい。引き続きご支援をお願いしたい。」と閉会の挨拶をした。